

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月16日

【評価実施概要】

事業所番号	3271800546
法人名	医療法人 徳祐会
事業所名	グループホーム あすなる
所在地 (電話番号)	邑智郡邑南町山田76-2 (電話) 0855-83-0321

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年3月16日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 12.85

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	基礎鉄骨木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	出雲市立総合医療センター、太田医院、島田歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域への貢献」を最重要課題として法人を設立した経緯があり、ホームをはじめ、法人全体で、積極的に地域密着への取り組みを行っている。地域行事など、見る側だけでなく、出演者として参加するなど、啓発も行われており、地域に溶け込んだホーム作りがなされているとともに、支援の面では、利用者の意向を尊重し、それぞれに合わせた対応を行っている。また、利用者のみで活動する時間を設けるなど、利用者の自主性も尊重した支援がなされている。地域医療に主眼を置く法人運営の基、自ら営む病院が、ホームに隣接していることもあり、緊急時の迅速な対応が可能であるとともに、総合病院の運営など、医療面においても利用者が安心して生活できるホームである。利用者をはじめ、家族や地域住民からの意見も多く、これを今後のホーム作りのに活かすなど、常にホームの質の向上を目指し取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、口腔ケア及び苦情相談窓口の明記等が改善課題としてあげられている。口腔ケアについては、食後に声掛けを行い、口腔ケアを促すよう取り組まれている。また、苦情相談窓口についても重要事項説明書等に担当者を明記する等改善されている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者をはじめ、職員全員が評価を実施する意義を理解しており、事業所の質の向上を目指す姿勢が見られる。またこれまでの外部評価で改善を求められた項目に対しては、早急に協議をし、ホームの更なる質の向上を念頭に置き、日々のケアを行うなど、積極的に取り組む姿勢が伺える。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政関係、住民、入居者及び家族等をメンバーとし、定期的開催している。今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。ホームとしても、これらの意見を真摯に受け止め、ホームの意義、存在感という点を含め、地域密着に向けた活動を展開、反映させようと取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 地域とともにホームづくりがなされている経緯があり、運営者が営む医院に直接出向き、意見をすることをはじめ、ホームに来訪した際により多くの意見を聞きだすよう取り組み、家族等が意見を言いやすい環境が出来上がっている。ホームとしても、この意見を運営に役立たせ、より地域に根付いたホームをつくらうと取り組んでいる。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームが、地域とともに歩んできた経緯もあり、地元保育所や老人会等との交流、また、災害時の協力的体制など、密に連携を図り取り組まれている。地元行事では、出演者として参加するなど、ホームの啓発を含め、より地域とともに発展していこうとする姿が確認できる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「・・・地域に開かれた、地域に愛された、・・・」という地域への貢献を主とした法人の理念の下、ホーム独自でも、利用者の利益を第一とする理念が定められている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で話し合う機会を設ける他、ホーム内に掲示し、啓発を図るなど、共有に向けた取り組みが行われている。また、職員は理念を理解し、これに沿った支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地元行事に出演者として参加したり、敬老会、保育所との交流会など、地域交流は法人としても重要視しており、積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を、職員全員で行い、ホームの問題点を見出すなど、運営者、管理者、職員ともに、評価の意義について十分に理解しており、これを活かしホーム作りを行う姿勢が見られた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族や地域代表者、行政職員等をメンバーとし、2か月に一回定期的に開催されている。会議では、ホームの運営状況や、行事等の報告がなされ、また、参加者のホームに対する意見も多く聞かれるなど、この会議をホームの質の向上に活かそうと取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人設立時より、役場担当者との連携が図られており、ホームとしても継続的に取り組み、事例の相談を行うなど、気軽に相談できる関係を維持している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者それぞれの様子を記載した連絡文書を送付するとともに、家族の来訪時の報告や様子の変化の際には随時連絡するなど、それぞれの状況に合わせた報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時に時間を設けることをはじめ、隣接する医院(法人理事長)へ出向き、意見するなど、より多くの意見を聴取する仕組みが出来上がっている。また運営推進会議でも、多くの意見が出され、それを運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として複数事業所を運営しており、定期的な異動は実施されているが、グループホームの特性の把握がなされ、ホームに関する異動は最小限に抑えるなど、配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修会をはじめ、隔週での勉強会の開催など、法人内でも積極的に行うとともに、外部研修にも積極的に参加し、職員の質の向上に向け取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流を行い、情報交換を行うなど、ホームの質の向上に向けた取り組みとして活動している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭訪問やサービス利用時の訪問で、顔なじみの関係を作っている。また、事業所の見学なども行い、馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や季節行事、また普段の生活から、利用者に教えてもらう場面を多く設け、支え合う関係を築いている。また、利用者が主となり、ホーム用の草履を作成し活用するなど、共に過ごしている面が確認できた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームの理念にもあるように、利用者の意向を十分に尊重した支援がなされ、それぞれに対応されている。また、利用者の過去の習慣から、お経の時間が設けられたりと、利用者の自主性を重視した活動もみられた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を把握し、これを基に職員全員で協議し、意向に沿った計画作成がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週行われるケア会議で、利用者個々の現状を確認し、協議するとともに、定期的な見直しや状況の変化による見直しを行うなど、それぞれの状況に即し行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人で複数の事業所を運営していることもあり、これらの事業所も活用しながら支援されている。また、受診の付き添いなども、本人、家族の状況等ふまえ、柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医をそのままかかりつけ医とし対応している。利用者全員が、隣接する医院を主治医としており、通常受診をはじめ、往診対応、緊急対応など、利用者の意に沿う支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人で「看取り指針」が作成され、入所時に説明が行われているとともに、体制整備もなされているなど、終末期の対応についても取り組みがなされ、ケース会議で話し合うなど、方針の共有もなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の生活歴や性格の把握がなされ、それぞれに合った対応がされている。記録等の個人情報についても、プライバシーに配慮し、取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活歴や習慣の把握がなされ、それぞれの意に沿った支援がなされている。また、日々の生活の中で、更なるニーズを引き出そうと取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等、利用者とともにっており、それぞれの役割を見出しているとともに、職員も同じテーブルに着き、同じメニューの食事をとっている。和やかな雰囲気作りにも取り組まれ、調査時も、笑顔の多い食事風景が確認できた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は夜間入浴など、本人の意向に沿った対応がなされていたが、現在は職員体制の都合で、日勤帯での対応しかなされていない。	○	夜間入浴について、再度ニーズの確認を行い、希望があった場合の対応方法など、ホームとしても再考され、取り組まれることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事や家事で力を発揮できるよう役割を見出している。また、同法人が運営する他事業所への外出や、遠くへの外出等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、整容をはじめ、法人が運営する他の事業所を活用するなど、それぞれの希望に合わせた外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また夜間については、防犯上の理由により施錠されているものの、家族の来訪など柔軟な対応がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームとして避難訓練、消火訓練など定期的に行われているとともに、緊急時の対応など、地域への協力要請も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量など、必要に応じて行われているとともに、栄養面については、法人内の栄養士にもアドバイスを受けるなど、支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、木目を基調とした温かさを感じる造りとなっており、利用者の状況にあったこだわりの調理台や、使い込まれているテーブル、椅子の設置など、心地よく過ごせる空間作りがなされている。訪問時、利用者それぞれが、共用空間で思い思いに過ごしている風景が確認できた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやこたつの設置をはじめ、趣味用品が置かれるなど、それぞれの状況に合わせた居室作りがなされている。ホームとしても、使い慣れた品の持ち込みにこだわりを持ち、より多くの馴染みの品の持ち込みが行われるよう促しも行っている。		